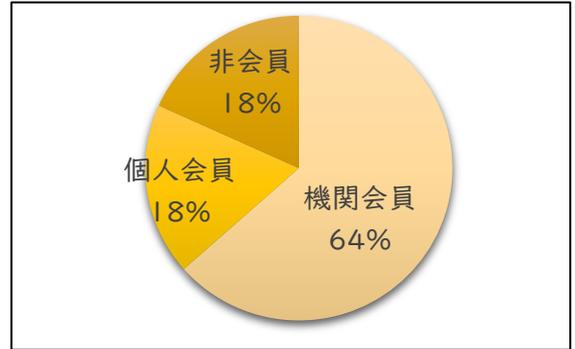


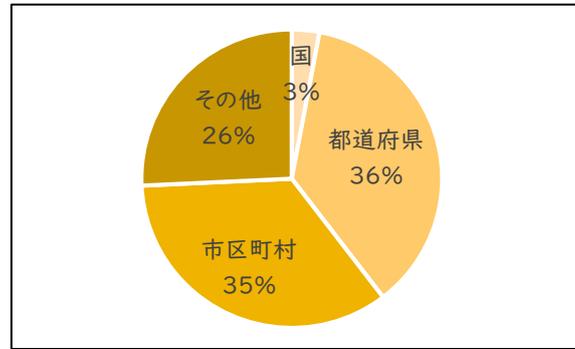
令和5年度全史料協第49回全国(東京)大会 アンケート結果
【回答期間11月30日~12月15日】
【有効回答数101(紙68・フォーム33)】

1.参加者(回答者)について

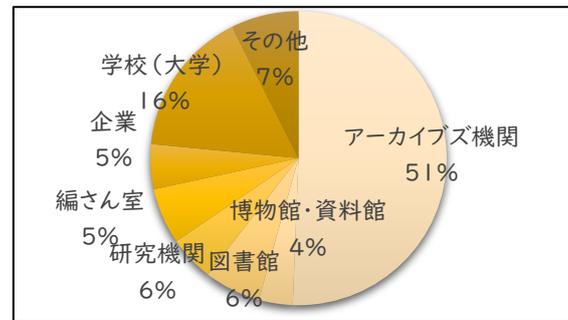
1 あなたは全史料協会員ですか。



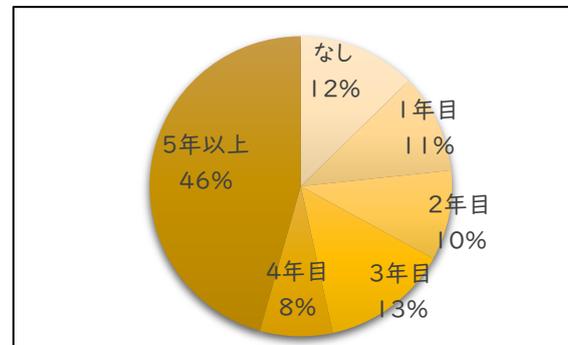
2 あなたの所属について教えてください。



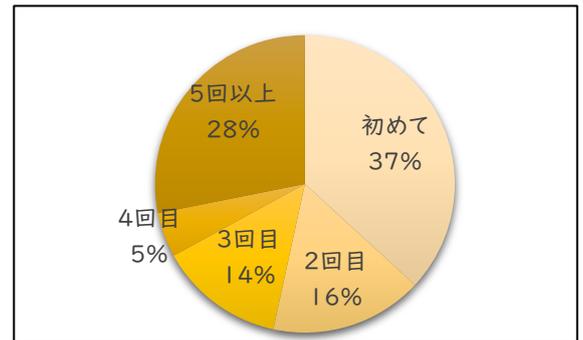
3 あなたの所属の性格について教えてください。



4 職場での実務経験年数を教えてください。

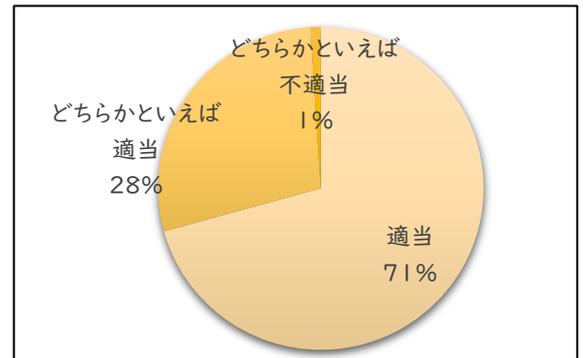


5 全史料協全国大会への参加回数を教えてください。



2. 大会テーマについて

1 大会テーマはいかがでしたか。



2 大会テーマについてのご意見・ご要望等

対面で参加する代表者と、オンラインで参加する留守組とでほぼ同じ内容を聞くことができるので、ハイブリッド開催は大変ありがたかったです。

現職場は1年目でしたが、かつて地方自治体の博物館相当施設に勤務していましたので、地域アーカイブズに関する議論は大変興味深く、拝聴しました。

昭和女子大学様の被爆者団体関係資料に関する取組については、個人的に「空襲・戦災を記録する会」に所属していることもあり、素晴らしい取組と称賛したい気持ちと、公的機関が取り組むべき課題ではないのか、という気持ちが相反する複雑な気分になりました。第二次大戦に関する歴史的な資料については、全国に点在する運動団体の資料が既に維持不可能となっており、今後大きな問題になるのではないかと考えています。

熱量のある取組を多く拝聴することができ、大変参考になりました。当館の業務や今後の取組提案に活かしたいと思います。大会運営もお疲れさまでした。ありがとうございました。

各自治体の取組を知ることができて大変参考になりました。

さまざまな課題と可能性（期待される役目）がよくわかりました

市町村の文書所管課に勤務する者としては勉強になる一方、今回報告された尼崎市や鳥取県などは非常にレベルが高く、「そのレベルが求められるならうちもムリ」と思われてしまうのでは、とも思った（実際アンケートなどで、「専門的な人材を確保できないから（条例を施行しない、公文書館を設置しない）」という回答はよくあるので）

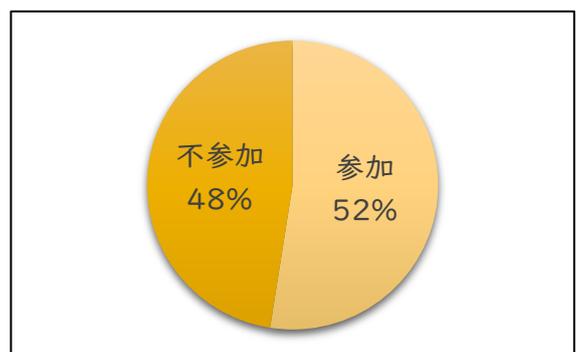
市町村のことを取り上げていただき大変参考になりました。

講堂での開催だったせいか、オンラインの音声聞き取りづらい時があった。いろいろ大変だとは思いますが、配慮していただけると幸いです。

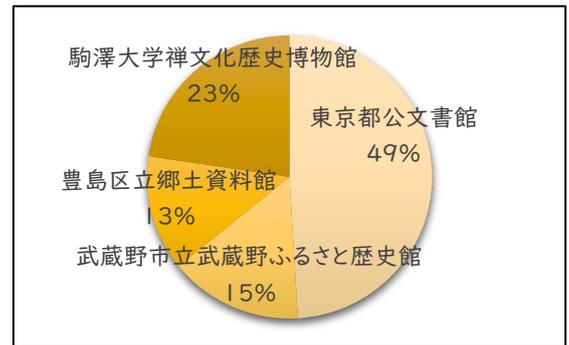
当市は文書の取扱規程しかなく、歴史的文書の判断、分類体制ができておらず、先進的な内容だった。日頃、目先の業務のことばかり考えることが多い中で、未来のことについて考えるいい機会になりました。
従前から言われているアーカイブズの問題だけでなく、昨今の災害関係の問題等新しい問題も取り上げてもらってよかったです。
大変わかりやすかった。
各自治体の現状、具体的な取組を知ることができて参考になった。
興味のかれるテーマでした。アーカイブズの現状や、これからの課題等について、意欲的に取り組まれている方々のお話を聞くことができて、新しい学びも多くありました。
若いかたの取組もあり興味深く拝聴した。
自治体アーカイブズの未来と、将来に向けての人材育成の必要性を意識することができた。
東京都下・鳥取県の基礎自治体の実状を知ることができた。
現在直面する課題はどこも共通していることが理解できた。
特別講演会以外は適当。
勉強になりました。
とてもよかったです。改めて足元を見直すきっかけ、気づきとなりました。
一般会員・専門職・行政職員も参加するため、テーマが難しいところではあったと思うが、1日目と2日目で内容と特色を出し、様々な会員が参加しやすいようにされていた。
自治体の厳しい状況の中で努力していることがよくわかった。
未来の展望を描くのは難しいと感じた。実践のレベルが高すぎると感じる部分が多く、できることを見出すのが難しい。小さな事例の積み重ねが知りたい。
「自治体アーカイブズ」はその情報をより必要とする人の多い現地にあることが望ましいことを前提に、国や都道府県などの制度化、基準の提示が広く求められていると思った。また、大学等も含めた広い視野で協力体制・ネットワークを作り、アーカイブの保存と活用のよりよいあり方を模索していく必要性を感じた。
都道府県・市町村で抱えている課題が同じなのか、異なっているのか、その実態面を知るとともに、自分の所属自治体の置かれている状況を見直す良い機会となりました。
基礎自治体から具体的な話題が聞けたこと。
普段、新潟県内にこもりがちな故、他県の取組を聞いて、公文書管理について刺激を受けました。勤め先のやり方と比較してみたいと思います。

3. 研修会A(施設見学)について

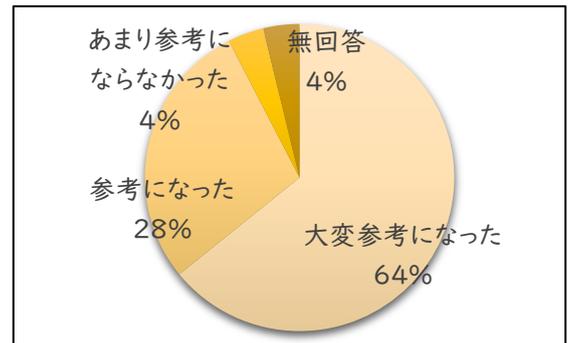
1 研修会Aに参加しましたか。



2 見学した施設（機関）を教えてください。



3 研修会 A は参考になりましたか。



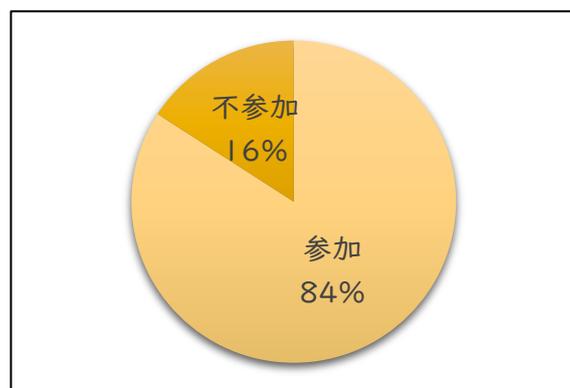
4 研修会 A についてのご意見・ご要望等

施設の設計の仕方や仕様など大変参考になりました。【見学先：東京都公文書館】
最新の設備に、資料等の保存環境や、閲覧利用者に対する配慮など、とても素晴らしいものだと思います。【見学先：東京都公文書館】
ZEB 化した建物(太陽光発電や屋上の天井等の厚さ)、機器の更新を考慮した配置など、施設の充実振りには目を見張るものがあった。【見学先：東京都公文書館】
公文書館として独立した建物があるのは望ましいと痛感した。【見学先：東京都公文書館】
すばらしい設備であること。【見学先：東京都公文書館】
すばらしい施設だった。【見学先：東京都公文書館】
令和 2 年の新設館ということで、施設（中・長期的な耐用年数を見据えて）・展示（サインージなど）・IPM（ゾーニングの徹底）の観点から最新の情報や知見を伺うことができた。【見学先：東京都公文書館】
他県の公文書館と比較する機会になりました。東京都公文書館の場合、書庫以外の温度湿度点検・バグトラップ設置など徹底した IPM が行われている印象です。
もう少し移動時間が欲しかった。【見学先：武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館】
実際の取組、実務を通じた課題等、色々とお話を聞いてよかった。【見学先：武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館】
少ない人員で積極的に活動していることに感心した。【見学先：武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館】
見学先から大会会場までの移動の負担を少なくできないか検討をお願いしたい。午後の研修会開始に間に合わないこともあるかも。【見学先：武蔵野市立武蔵野ふるさと

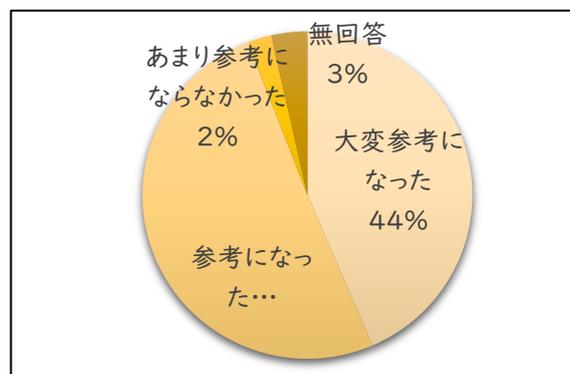
歴史館】
複合ビル内にある施設という点で自館と共通しており、遠方に書庫・資料庫を置くことの課題など参考になった。【見学先：豊島区立郷土資料館】
他館の展示方法を自分の所でも取り入れたいと思う。【見学先：駒澤大学禅文化歴史博物館】
施設の案内が欲しかった。【見学先：駒澤大学禅文化歴史博物館】
施設館移動に配慮して欲しいです。【見学先：駒澤大学禅文化歴史博物館】
かねてから気になっていた博物館だったので、十分楽しませていただいた。【見学先：駒澤大学禅文化歴史博物館】

4. 研修会B(ヨーロッパにおける基礎自治体の文書管理と専門職)について

1 研修会 B に参加しましたか。



2 研修会 B は参考になりましたか。



3 研修会 B についてのご意見・ご要望等

文書図書保護局で保護された文書はその後どうなるのでしょうか。
外国の取組みを知れたのは良かった。
海外の事情の例を知る機会がなかったので、有意義であった。
巡回するアーキビストという立場が新鮮に感じた。国の文書管理に対する姿勢が県・市町単位にまで浸透しているのは参考になった。
参加者側に、認証アーキビストの資格コースのある昭和女子大の学生という誤解があった印象です。

先進国というか、世界の状況の詳細は見習う点も多く参考になった。
イタリアの各自治体のアーカイブズ施設の相違点や具体的な実態がわかり、大変勉強になりました。
文書管理において単一自治体では限界があることもあり、イタリアの事例は大変参考になった。
アーキビストとしての自負について、日頃から「自分の仕事は自身が生きている間に評価されることは、あまりない」と思っているので、アーキビストに国境なし、と思いつつ、より一層精進していこうと気持ちが引き締まった。
海外事例に触れる機会は少ないため参考になった。
ヨーロッパの大きな都市の話は聞いたことがあったが、小さな自治体のことは初めて聞き興味深かった。優秀なアーキビストが多いのだなと感じる。
日本の場合①保護②保存③調査を公文書・公機関が一手で担う一方、①～③を果たすことが難しくなっています。イタリアの体制を取り入れるとところがあればそうしたいのですが……。できるのでしょうか。
「所有権はどこでもいいけど物は現場」の原則で公権力を発動しちゃうイタリアが好きだな、と思いました。
国の機関である保護局が非国有アーカイブズの調査や保護を実施している点は、今後人口減少が進む日本でも参考になると感じた。
外国の地方アーカイブズの実情を知ることができ、参考になった。
イタリアには非営利・草の根の文書館もたくさんあり研究上たいへんお世話になったので、なつかしくお話をうかがい、また制度的・文化的背景もよくわかりました
他国の詳細を、比較対象として知ることができてよかった。フリーランスのアーキビストについての説明のなかで、日本の正規職員よりも給与が低いと言っていたが、日本の会計年度任用職員と比べるとイタリアのアーキビストの給与はどのなのだろうか。また、イタリアではコムーネのアーカイブズにアーキビストが関わることに、法的根拠などで明確化しているのだろうか。日本の場合は、アーキビストがいなくても館を設置できるが、イタリアではどうか。
現地のことが写真等で大変良くわかりました。
オンラインの映像が見つらなかった。面白い内容だっただけに残念だった
保存と保護を分けるという考え方は、これからの当市の歴史文書の取扱方法を考える上で参考になった。
イタリアの街並みや歴史的な背景が垣間見えて興味深かった。
海外について知る機会がなかなかないので興味深かったです。
アーカイブズも含め歴史的史料や文化財等は所有権が変わっても保管場所は地元であることが頭に残りました。
他国の事例が大変興味深かった。
ヨーロッパの基礎自治体の文書管理について知ることのできる、貴重な機会でありました。日本と比べながら聞くことで、新たな気づきにつながる講演でもあったと思います。

実際の画像を紹介しながら講義していただいたので、イタリアのアーカイブズ機関の雰囲気を感ずることができた。

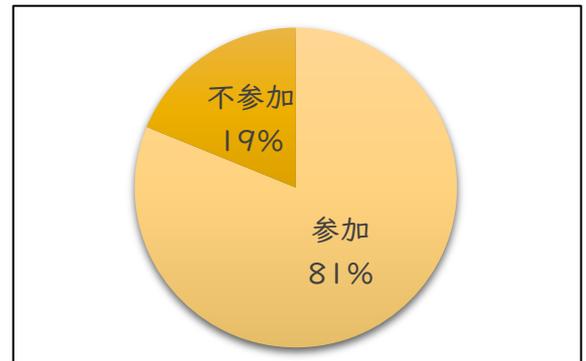
日本とは異なる事情もあるかと思うが現場を支えるには人材が大切であることが分かった。

海外の情勢を知ることができ、また国内との比較をとおして、いろいろと勉強になりました。

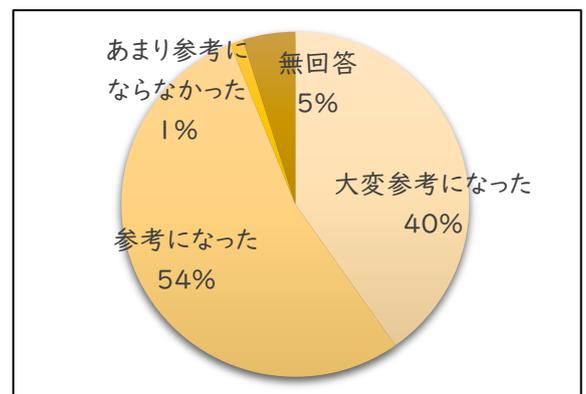
職員の方がカートで保存する公文書を収集していることや、羊皮紙の公文書があること、公文書を保管している書庫で展示を行っていることなど、興味深かったです。

5. 研修会 C (被爆者運動史料の整理・保存・活用) について

1 研修会 C に参加しましたか。



2 研修会 C は参考になりましたか。



3 研修会 C についてのご意見・ご要望等

学生さんの頑張りに敬意を払います。

高等教育に生かされている姿を見ることが出来てよかったです。

近現代資料・民間資料の収集の取組みとして参考となった（まずは文書の散逸に取り組むことが重要で、それに若者が取り組んだことを皆が評価すべき）。

若い世代の積極的な取組が聴けて楽しかった。

学生プロジェクトの発表はとても参考になった。他の大会でもこのような機会があれば良いと思う。

アーカイブという視点より資料の整理体験という性格が強い印象だったが、今後こうした大学や民間の活動とアーカイブがいかに協力し合っていくかが重要だと思う。

<p>参加者側に実務者が多数集まる本会では合わないと思った。学会での報告なら許容されるかもしれないが研修企画としては如何かと思った。</p>
<p>地域の史料をどうこれから守っていくか、それは民間や学校の力を借りないと難しいと思います。目録の作成とか学問的な部分のこだわりは大切ですが、最も優先とすべきは何か、今この分野に携る方達は、人材育成の面からももっとしっかり考えてもらいたいです。</p>
<p>大学の学生さんが被爆者やその関係者・研究者の方々と交流しながら、史料の整理だけでなく、展示などにどのような形で活用されているのかがわかり大変勉強させていただきました。</p>
<p>地道な史料整理、それを公開して、被爆者の方々と共有し、展示・啓発をすること、とても敬服しました。史料保存機関に勤務する身としては、個人情報のごことが少し気になりました。</p>
<p>若い方の取り組みの紹介は非常に良いと思います。もう少し早く司会が質問をコントロールしていただきたかったです。</p>
<p>資料の管理・保存の観点を越えたところに「利用」の価値を示してくれた報告だったと思う。人あってこそそのアーカイブなので。</p>
<p>取組に感動しました。</p>
<p>素晴らしい取組と思います。今後の活躍をお祈りいたします。</p>
<p>被爆者団体史料の保存・活用が多角的な意義をもつことに気づかされました。各地でも広がってほしいものです（遺す必要性が強まる意味でも）。</p>
<p>Z世代が一生懸命やっているのが心強い。感性が違うので被爆者とどういう感じで向き合ってお付き合いしてきたのかも聞きたかったです。</p>
<p>学生さんの活動を頼もしく思えました。アーカイブズ活動の継承の好事例を聞くことができました。</p>
<p>学生が長期にわたって資料群に向き合う活動を知ることができ、有意義だった。</p>
<p>記憶に根差した記録の継承という点でとても大切に頼もしくうかがいました。目録の標準化は（念頭にあれば効率はよいかもしれませんが）あとから何とでもなることですので、気になさらないでよいかと思います。大学としての継続的なサポートに期待します。</p>
<p>アーカイブズの社会における活用の事例として大変興味深く拝聴した。全史料協は、アーカイブズ機関職員が多いのもあり、どうしても保存機関の目線の話が多くなってしまう。利用の方まではなかなか話を聞くことは稀なので、刺激的だった。学生が、運動団体と関わり、アーカイブズを社会に発信していくという濃密な活動内容に頭が下がる思いだった。学生でないといけない活動だと思う。ただ一つ心配なことは、持続性ということであり、明確な組織で行われている活動ではないので、今後、どうしていくのかなど展望があれば教えてほしい。</p>
<p>御尽力の様子が力強く感じられました。</p>
<p>資料整理の内容をさらに深化して展示した点が参考になった。</p>
<p>史料収集の実務例が聞け、その展示活用の手法は、当市でも行えればと思う。</p>

被爆者運動史料を整理し後世に伝えていこうと取り組む学生の活動が興味深かったですし、辻川会長のコメントに共感しました。世界標準に即した記録を作っていくのは、これから先の課題なのだと感じます。

資料の保存・活用と散逸・廃棄問題について考えさせられました。

戦後史料を後世に残すための具体的な取組とその効果等についてお話されていたが、保存と活用の重要性を感じる講演でした。

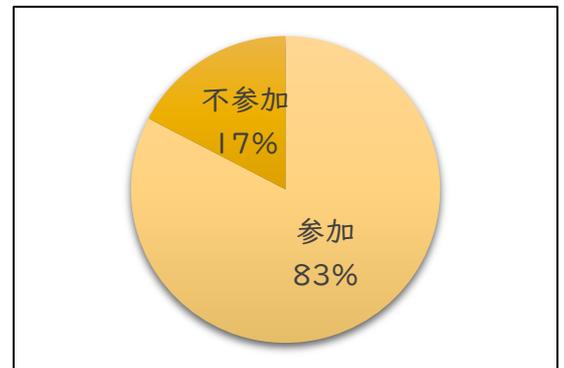
被爆者運動史料の保存についての具体的な活動を知ることができたので、当館においても戦争被害にまつわる資料などを入手した際の取組の参考にできるかと思う。

若い方々の貴重な取組であり大変勉強になった。

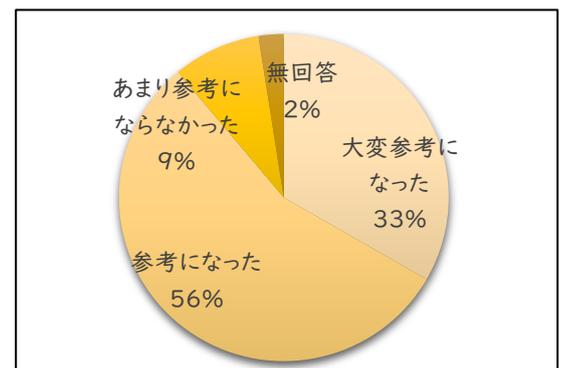
アーカイブスの利用を高等教育の現場に生かされていることに感動しました。この取組をもっと深めて、将来に向けての人材の育成につながればよいなと思いました。本大会のテーマに沿った内容だと思いました。

6. 特別講演会（料紙研究とアーカイブズの関わり）について

① 特別講演会に参加しましたか。



② 特別講演会は参考になりましたか。



③ 特別講演会についてのご意見・ご要望等

補修や保存の実際に関連するお話や、紙の現在と未来について、もう少し詳しく伺いたかったところです。（すごく時間が長くなりそうですが）

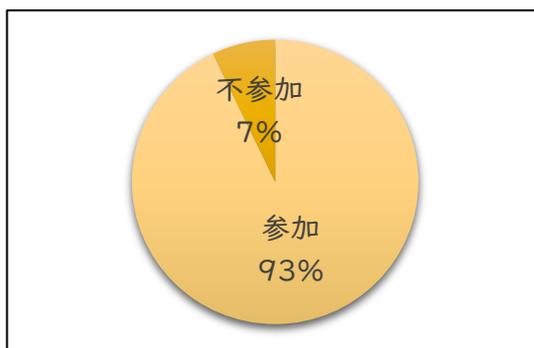
マニアックな話ではあったが、正倉院のお話に加えて「紙」を突き詰めた方の話は純粹に楽しかった。

専門的で難しかった。

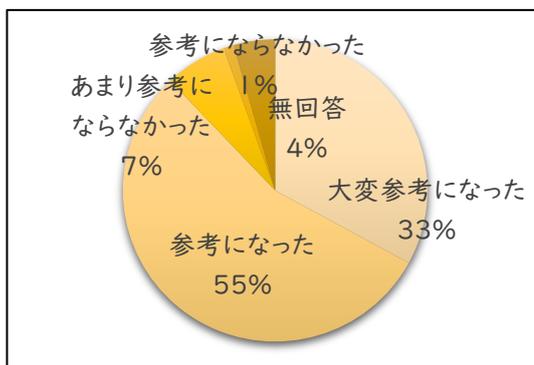
<p>テーマに関してすりあわせをもう少ししておかれると良いと思った。先生のお話しはととてもすばらしいので。</p>
<p>インク焼け（墨字の）について何か原因等情報があれば聞きたかった。</p>
<p>個人的には非常に興味深く拝聴したが、近現代の文書の取扱いが中心の自館としては最後の酸化や劣化の話をもっと聞きたかった。</p>
<p>和紙愛があふれてました。史料をみてわからなかった疑問がとけました。</p>
<p>直接、現在の業務に関わる内容ではなかった。ただ、あまり触れることのない内容で興味深く思いました。</p>
<p>紙のことは不勉強だったのですが、麻と楮の違いだけでなく、その製造過程がどのように異なるのか、またその判断の仕方も経験知と科学的分析で異なることもよくわかり、大変勉強になりました。</p>
<p>料紙について研究成果を詳しく拝聴できた。近世・近現代の紙についても詳しく知りたいと思った。</p>
<p>現場で直接は生かせないが、保存の面などで参考になる視点であった。</p>
<p>自分のところに和紙資料はほとんど無いこともあり、直接的に役には立たないかもしれないが、民俗学的(?)にととても面白かった。</p>
<p>アーカイブズとの関わりの部分に期待していたので、あまり参考にならなかった。</p>
<p>料紙について勉強になった他、普段見る古文書を見つめ直したくなりました。</p>
<p>料紙の作り方など技術的なことは、難易度が高かった。</p>
<p>特に近世以降普及したドーサ引きが基底材の酸化をもたらしかねない点は盲点でした</p>
<p>細かな素材の御説明までしていただき大変参考になりました。</p>
<p>和紙といえども酸性の問題があることに気づかされました。</p>
<p>和紙について普段聞けない内容だったので大変学ぶことが多かった。</p>
<p>業務に関係することではないが、紙の原料から製造方法の違い等のお話は大変面白く興味深いものであった。</p>
<p>専門的な話で、ついていくのが大変でした。</p>
<p>資料保存と紙の問題はもっと取り上げてほしい</p>
<p>紙の原料についてのお話がよかったですと思います。</p>
<p>非常に専門的なお話でしたが、ここまで詳しく紙について学ぶことができる機会はなかなかないと思いました。これまでなんとなしに使っていた紙ですが、非常に奥が深く知見が広がりました。</p>
<p>料紙から考察できる時代背景や紙の歴史についてが非常に面白かった。内容ではなく、料紙から推察されることがこのようにあることから原本の保存が求められることの意味を改めて知った。紙についての基本的な知識や制作過程、またその変遷が知れたことも興味深い。</p>
<p>専門的すぎ、理解が難しかった</p>
<p>紙について理解することで、今後の保存や修復について、とても参考になりました。</p>

7. 国立公文書館特別報告（アーキビスト認証の取組について）について

① 国立公文書館特別報告に参加しましたか。



② 国立公文書館特別報告は参考になりましたか。



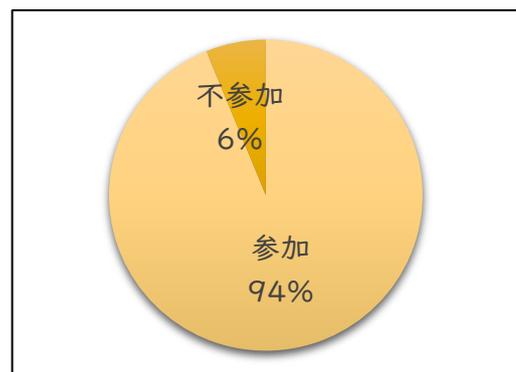
③ 国立公文書館特別報告についてのご意見・ご要望等

アーカイブズ機関で長期間勤務しても学歴がなければ意味が無い、という点でアーキビスト資格には失望しています。
大会テーマに合っておらず、参考にならない。
参考とはなったが、もう少し短く要点をしばっても良かったと思う。
認証アーキビスト、准認証アーキビストについて詳しく知ることができました。
是非職場で広報したい。
自分は認証アーキビストに申請していないが興味はあり、条件を満たしているのかは申請しないとやはりわからないのか気になっている。
准アーキビストが認証アーキビストの候補者であるという立場ということはわかったが、今後認証アーキビストの社会的な立場を確立していかなければ活発化はしないと思う。
准認証アーキビストの位置づけがたいへんよくわかりました。
特に認証アーキビストについて、資格という形で確立することの大切さは今後のアーカイブズ運営を考えると必要と認識しているが、アーキビストに大切な協調性等人格の面での評価まで国立公文書館長が判断できるとは思えず、無責任な認定と思います。必ず、その者に係る関係機関等の意見を判断のひとつとすべきです。
准認証アーキビストを設ける目的や基準とその期待される役割がよくわかりました。准認証アーキビストの申請を前向きに考える良い機会になりました。
准認証アーキビストの目的や位置付けは非常に興味深かった。

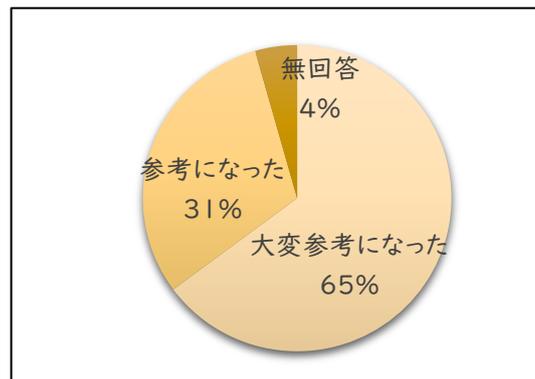
新たな取組として准認証アーキビストについて理解が深まった。
准認証アーキビストは大学院か関係機関の研修を終了すれば、申請＝認定なのか。
既に公表されている内容が主であった。国立公文書館に報告をもらうのであれば、例えば認証の更新と全史料協の大会・研修会の位置付け、関係は現場でいかしやすい。
准アーキビストという制度が、司書補みみたいな緩いものにならないことを望みます・・・。
会計年度任用職員でかつ学士卒の場合、ハードルが高いように感じました（准認証アーキビストも）。
制度についての感想ですが、修士課程や研修の論文で専門性の担保はできるので、准アーキビストという認証を別でする必要性は低いのではと感じた。
准認証アーキビストの制度がよくわかった。
認定制度の位置付けが整理されて分かりやすく参考になりました。
何度も聞いている内容だったので、個人的には参考にはならなかったが、何度も行うことが周知には大切だと思う。
准認証アーキビストの概要が大変良くわかりました。
准認証アーキビストについて分かりやすく要約してよかったです。
アーキビスト認証、准認証制度を初めて知り、研修期間にもよるが制度活用を検討したい。
准認証アーキビストが認証アーキビストの候補者に位置づけられるという点を、どう捉えるべきなのか、どれだけの価値があるものなのか様子を見ていきたい。
アーカイブズの現状やアーキビスト制度（准アーキビスト）が世の中にもっと知られてほしい。
アーキビスト認定の要件や全国の認証者数の説明が為になった。
準認証アーキビストに関する取組に興味がありました。その目的や概要、位置づけについて詳しく知ることができる良い機会になりました。
半数以上の方が認証アーキビストの資格取得にメリットを感じており、公的に名乗ることができる事を理由としているのに対し、社会的にはまだアーカイブズやアーキビストへの理解が不十分であると感じました。
アーキビスト認証の意義が今一つ伝わりにくい。
多くの専門知識を持った人材の育成に役立つ制度だと思いました。
当館にはアーキビストがいるが、これから入ってくることになる職員に対する資格取得に関して、知見が得られたことがよかった。

8. テーマ研究会報告Ⅰ（東京都の基礎自治体における文書管理）について

1) テーマ研究会報告Ⅰに参加しましたか。



2] テーマ研究会報告 I は参考になりましたか。



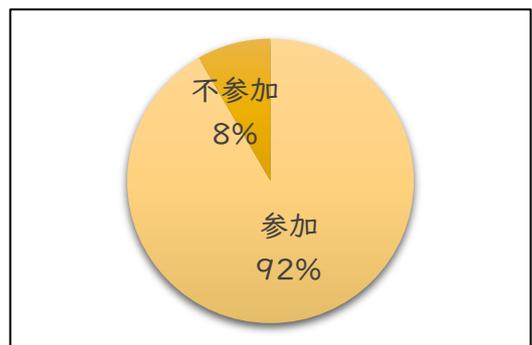
3] テーマ研究会報告 I についてのご意見・ご要望等

説明が大変わかりやすく、参考にしたい点が沢山ありました。近くに相談できる同規模の館がある環境が羨ましいです。
現実的に抱えている問題と共通していた。具体的な努力の過程がよく分かった。
東京都の取組を知れて良かった。
「一歩進めている事例」をもっと多く知りたい。
他施設の実状がわかってよかった。
(江) デジタル化した長期保存文書は少し遠方に置いてもいいのでリスク分散にもなると思った。
東京都内は国との連携も強く制度も進んでいる印象だったが、地方と同様に文書管理にあたって元課職員の理解など共通の課題があるのだなと知った。
都下の各自治体の様子がよくわかりました。
都の市町村への関わり方がうらやましいです。
今後目指す方向を考える上で、とても参考になりました。
一番良かった。
東京都内における自治体の公文書管理とその意識面の相違がわかり大変参考になりました。また、江東区や世田谷区の具体的な取組も知ることができ、勉強になりました。全史料協が果すべき課題はアーカイブズを学ぶ一個人としても考えるべきことだと感じた。
東京都内の自治体に対する意識を知るきっかけとなった。似たような感じであることに安堵を覚えるとともに、意識を変えるには長い道のりとなるのではないか。
大会冊子 p 49 ⑥の意見が今後大事なのではないか。
あまがさきアーカイブズの意欲的なレファレンスに対して丁寧に取り組んでいること。非現用文書に対する現場の認識の微妙な違いが、ひと事ではなさすぎて恐怖でした。
東京都内での文書管理の実態が分かりやすく、自分の住む自治体はどうか興味を持たれた。
江東区の取組には学ばされるところがあります。他県の公文書管理事情を聴く重要な機会になりました。
東京都が開催する文書管理セミナーに参加したい、というのが正直な気持ちです。

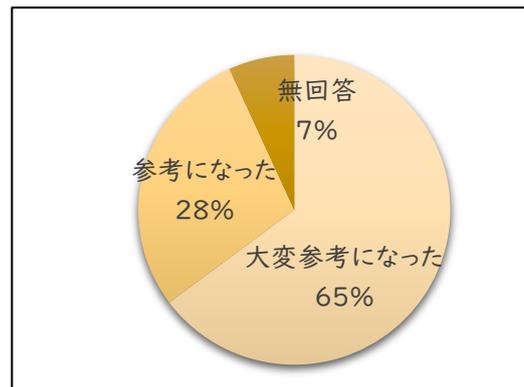
市町村との連携のあり方は、大変参考になりました。当館でも取り組めることがあると思うのですが、縦割り組織の影響もあり、現用文書管理への関心が薄いのがブレーキになっている気がしています。
とてもわかりやすい報告で、基礎自治体の取組や課題が把握できてよかった。
都内市町村の実態や担当者の苦慮の様子がよくわかった。
冒頭都域を4区分に色分けしての沿革が勉強になり、大阪との比較で行政責任の所在を考えさせられました。
アンケートをもとに分析されていたが、アンケートは回答者の主観に基づくため、担当者が設問の意図を誤解して回答していることがあると、以前分析して感じた。実際の規則/規定や運用がどうなっているかも重要であると思った。
江東区と世田谷区の事例は興味深く聴いたが、統計以外で東京都の基礎自治体の全体の像をつかむことができなかった。自治体によっていろいろという現状を反映しているからだろうか。鳥取に比べ、東京都公文書館の基礎自治体へのコミットも、あまりわからなかった。
過去の東京の様子が大変良くわかりました。
東京都と各区、各自治体への働きかけ方が大変参考になった。
実務に関わる内容であり、他市町の状況をアンケートから知ることができ参考になった。
文書管理実態アンケートの回答が興味深かったです。永年保存を設定している自治体が意外と多く、どの自治体も書庫が狭隘化するのとは当然だなと感じました。西木氏の話し方は聞き取りやすかったです。
自治体によって、アーカイブズの取組に関して差があると思った。東京都だけではないでしょうが。
世田谷区の公文書管理条例の制定に関する報告が興味深かった。
他自治体の文書管理の状況について知ることのできる貴重な機会でした。講義の中で、アンケートの結果とそこから見える課題のお話がありました。地方公共団体の文書管理の課題を再認識できましたし、改善のために何が必要であるか考えるときに、非常にためになる講義でした。
将来へ残すことを前提として、誤廃棄や情報漏えいなどの防止のためにも適切な公文書の保存管理が求められている中、それらに必要な環境や職員の意識が不足していることを改めて感じました。
とても勉強になりました。
当館のある地域でも同様の問題をかかえており、事例は大変参考になった。

9. テーマ研究会報告Ⅱ（自治体アーカイブズのこれまでとこれから）について

1) テーマ研究会報告Ⅱに参加しましたか。



2] テーマ研究会報告Ⅱは参考になりましたか。



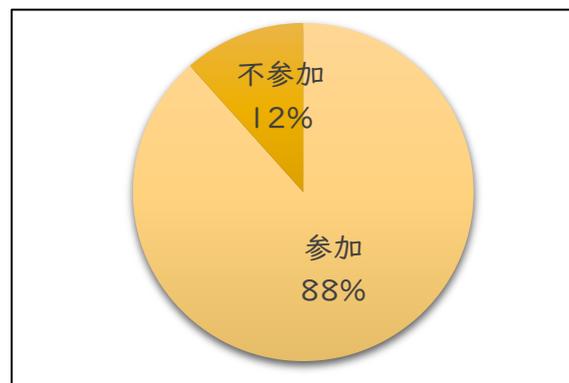
3] テーマ研究会報告Ⅱについてのご意見・ご要望等

レファレンスを1つのテーマにしても良いように思います。
当館も図書館との併設館なので、前段の博物館との棲み分け部分をじっくり聞けたらと思いました。レファレンスを大切にしたいと改めて感じました。
先進的な取組を数多く行っている。
尼崎市の取組を知れて良かった。
レファレンスでの取組について参考になりました。
参考になったが先進的過ぎて、実現が大変だと思った。できることを一つずつが大切であるが。
意欲的な取組ばかりで感心させられてばかりだった。
展示会や講座が普及啓発の中心として語られることが多いが適切・丁寧なレファレンスも利用者の深化拡大にきつとつながるものだと思うので、とても共感できた。
とてもよくまとめられていて今後も先頭を走り続けていただきたいです。
先進的な取組が多く、目からウロコでした。
地域で認められる、評価されているアーカイブズと感じました。
現場の専門員がレファレンスを通じて利用者とはどう交流をしてきたのか。また、デジタル分野のさらなる活用についてなど様々な工夫、模索をされている様子がわかり、大変勉強になりました。
レファレンス重視の観点から、市民の方々との結び付きや市民の方向けを体現したようなアーカイブズはとても興味深かった。
いろいろな取組をされており、頭が下がる。作成課との関係性は見習うべきものがある。
管理法により「管理」に注目がいきがちだが、利用の重要性、工夫の仕方について参考になった。
よく練られたプレゼン資料がすばらしい。力のこもった発表でした。
あまがさきアーカイブの話は定期的に聞いている気がするのですが、聞くたびに何か進化しているのが、頼もしく感心することしきりでした
取組に感動しました。

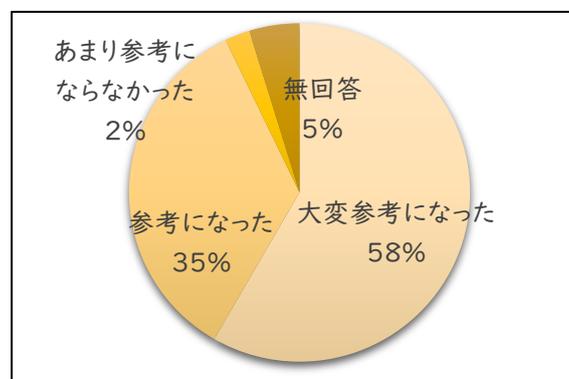
公文書館（アーキビスト）と市民の関係づくりについて考えさせられました。各都道府県の現状に沿って考えてみたいです。
尼崎市の条例制定時に「利用・公開を強く意識した」という報告にぐっときました。沖縄県は今まさに条例制定に動いています。魂が入らない条文ができそうで恐ろしいことになっていますが、なんくるないさ、で乗り切る方向になりそうです。
尼崎市の活動については、以前から羨ましく思っていました。ただ、河野さんも仰っておられましたが、抱え過ぎている感もあります。ホスピタリティ精神に溢れているのかもしれない。「閲覧室は、アーカイブズの心臓部」同感です。
あまがさきのように先進的な取り組みをしたいと思いました。レファレンスが心臓であるというのは、館の所蔵状況によるからなのか確かにあまり研究事例がないと気づきました。
レファレンスや地域住民との接し方など、参考にすべき点が多かった。
充実したレファレンス背後のご苦勞を垣間見て頭が下がると同時に、博物館・図書館との連携で市町村にも無理なくアプローチできる可能性を感じました。
レファレンスのスキルをどのように向上していくか、という話は参考になった。
面白い報告だった。非政令市でも、ここまでのことができるのだと、感心した。ただ、あまがさきアーカイブズが、特定歴史公文書のデータベースが未公開であり、インターネット上で利用者が検索することができない。デジタルアーカイブズの意義は重要ではあるけれども、そちらよりも先に、目録検索を整備した方が良いのではないだろうか。
細かなところまで大変参考になりました。
地元との連携の取り方など参考になった。後の質疑で、高校生だけでなくPTAも参加できる勉強会にするとよいのでは、との意見は納得できた。
先進的な市の事例を見ることができた。
尼崎市がこれまで積み上げてきたアーカイブズに対する姿勢、取組が今のこの状態になり得ているんだと、よくわかりました。河野氏も話し方が聞き取りやすかったです
尼崎市のアーカイブズに取り組む姿勢・体制が大変参考になりました。
あまがさきアーカイブズの「利用」からの視点が大変参考になった。
積極的に新しいことに取り組みまれていて、刺激を受ける講義でした。アーカイブズの利用・公開の現場の方の意見として、非常に具体的な意見を聞くことができ、多くの学びがありました。
市民の方々へアーカイブズを周知していくためには、展示や講座などのイベント、デジタルアーカイブズ、学校連携などどのような工夫ができて求められているのだろうと考えました。
新型コロナウイルス感染症についての記録を残す取組は大変勉強になった。
大きな館ではないかもしれませんが、取組内容は濃く、職員の意識と熱意で、ここまでの成果を出すことができる現実を知り、とても参考になりました。
レファレンスについては当館でも行っているが、地域との連携については、要望はあるものの対応しきれず、取組は参考になった。

10. テーマ研究会報告Ⅲ（公文書管理条例・歴史公文書保存条例と自治体アーカイブズの行方）について

1] テーマ研究会報告Ⅲに参加しましたか。



2] テーマ研究会報告Ⅲは参考になりましたか



3] テーマ研究会報告Ⅲについてのご意見・ご要望等

盛りだくさんで早口だった。論点を絞ってゆっくり話してくれたらよかった。
鳥取県の取組を知れて良かった。
様々な取組をうかがえてよかったが、当県・当館との差を感じて複雑であった。
県庁・県立図書館と隣接しているのは大変好立地だと思う。県や県議が文書に対する意識を高くもって、積極的に制度化や標準の制度に取り組んでいるのはすごいと思った。
詳しく話を知りたかったのでたいへん参考になりました。
都にも負けずに市町村支援を頑張っていると感じました。
いろいろな面で参考となるが多かったです。
鳥取県の公文書管理がどのような状況なのかを知ることができたとともに、県民も含めた公文書の保存・管理意識が様々な協議の中で、形成されてきたことが、よくわかりました。
歴史公文書等保存条例は、全国初の制定であり、これに続く自治体があれば、もう少し保存への意識が変わるのかもしれないと思った。
基礎自治体支援がこれから重要ではないか。
さすが鳥取。

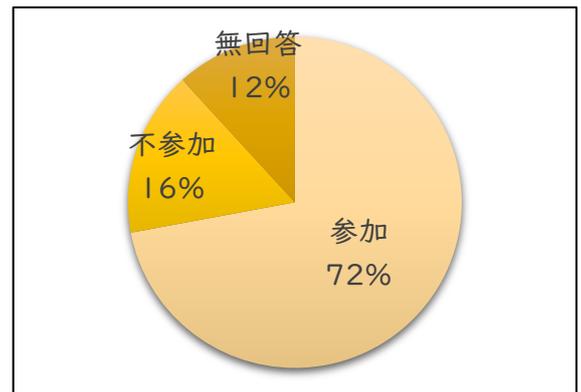
<p>一昨年の高知県のお話を聞いたときも思ったのですが、地方の公文書館が元気で頑張っているなと思います。大いに発信していただきたいです。</p>
<p>RPA と人間の役割分担について考えさせられました。世代交代による歴史資料の減失が絶えないことも両確認する機会になりました。</p>
<p>公文書管理条例制定の準備を進めている当県にとって、鳥取県はモデル県として注目しています。特に災害対策への対応は、学ぶことが多くありました。</p>
<p>生成 AI 等の業務活用の視点は新しく、今後意識しながら業務にあたろうと思いました。提案可能な取り組みも多く、大変参考になりました。</p>
<p>市町村との連携など、素晴らしい取り組みが多く参考になりました。</p>
<p>県と市町村との関係性について、公文書管理だけでなく防災や DX など多岐にわたっている様子がよくわかった。</p>
<p>もりだくさんのご報告でたくさんの刺激をいただくと同時に、議会や首長の理解しだいでどうなるか、再び大阪との比較で深く考えさせられました。</p>
<p>鳥取県が、ただ単に県が設置している公文書館というだけではなく、文字通り、鳥取のアーカイブズを導いている存在であることがわかった。基礎自治体へのコンサルタントを行っていると言えるだろう。他に、都道府県が基礎自治体の文書管理へのコンサルタントを行っている事例があれば知りたいと思ったし、国立公文書館がイタリアのように、そこまで行くことを考えてもいいのではないかと思う。</p>
<p>公文書管理条例の重要性が改めてわかりました。</p>
<p>難しい内容を分かりやすく説明されていたのでよかった。歴史資料として公文書を語られることが多いが、公民教育に活かせるとの意見は参考になった。</p>
<p>県で市町村用の歴史公文書の評価選別基準を定めたり、研修会を開催したりと、ぜひ内容を知りたい。</p>
<p>鳥取県の、市町村と連携した取組については興味深いです。自治体の規模の問題もあるかもしれませんが、全国的に広がればいいのに、と思います。</p>
<p>自治体アーカイブズのこれからの問題点も提起されていて参考になった。</p>
<p>鳥取県の先駆的な取り組み事例が大変参考になりました。このお話を聴いて、今後の目標が明確になったような気がします。</p>
<p>鳥取県内で、どういった公文書管理の取組を行ってきたか、その経緯等まで詳しくご講義いただき、大変勉強になりました。文書保存について、災害対策の観点からの取組等についてのお話がありましたが、近年自然災害が激甚化してきている中で、文書を保存していくために向き合わなければいけないところであると改めて考えさせられるお話でした。</p>
<p>所蔵資料目録について、関連ワードでも表示されるようになったらさらに探しやすくなると今年度お問い合わせを頂いたので、アーカイブズにおいても DX の推進は求められていることを感じました。</p>
<p>現在の事例ではないため、最新の情報とは感じにくい。</p>
<p>内容もさながら、発表者の人柄に触れることができ、とても楽しく、全般にわたって有意義なお話を聞くことができました。とても、勉強になりました。</p>

災害に備え、通常時からの資機材の備蓄など、具体的な取組について大変参考になった。

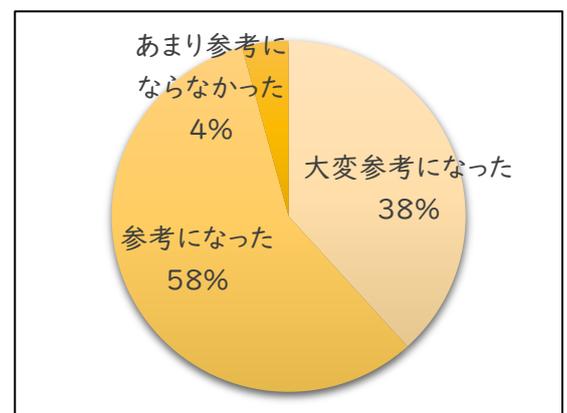
公文書事務を統括する部門とアーカイブズとの関係について、多くの知見を得られ、大変参考になった。

10. 協賛企業展示・書籍販売・ポスターセッション・出版物展示について

1 協賛企業展示・書籍販売・ポスターセッション・出版物展示に参加しましたか。



2 協賛企業展示・書籍販売・ポスターセッション・出版物展示は参考になりましたか



2 協賛企業展示・書籍販売・ポスターセッション・出版物展示についてのご意見・ご要望等

ポスターセッション会場が遠いし、見に行く時間配分もされていなかったのが残念でした。

参加の企業が少なくなったように感じました。

文書の保存・酸化への対応、デジタルデータの保存などの資料がよかった。ポスターセッションも個人的に拝見できてよかった。

新商品を知ることができました。

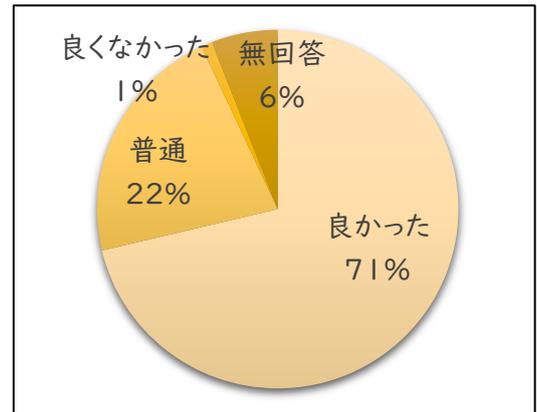
2025年問題(東京光音)

まとまった参加時間があってもよい。

中々時間がとれなかったのが残念ですが、色々勉強になりました。

11. 大会運営について

1 感想を教えてください。



2 大会運営についてのご意見・ご要望等

ポスターセッション・出版物展示の場所が遠かった。

みなさまお忙しい中、さぞ大変なご苦勞だったと思います。実りある大会を開催いただき本当にありがとうございます。

良かったが、全体的に時間の余裕がなく、ポスターや展示をみる十分な時間がなかった。

今後、ポスターセッションの会場にはご配慮いただければありがたいです。

ポスター発表の場所が奥まっっていきづらかった。受付周辺にゆとりがあったので、そこに集約されてもよかったのでは。

非常に刺激的でした。またよろしく願いいたします。

ポスター展示の場所がわかりづらかった。

報告者に、その時個別に質問できる機会があると嬉しい(参加者全員に周知するほどの内容ではないと思い、質問しづらい部分がある)。

少し段取りに工夫が要るかもしれないが、広い会場、多数の参加者への対応お疲れ様でした。

ありがとうございました。

多くの機関の取組について知ることができました。

久しぶりの対面開催おつかれさまでした。

現地見学先の決定がメールのみで事前配布になかったため、次回から手元のひかえとしてもてるものがほしいです。

2日目のみのプログラムで充分と感じました。

4年ぶりの対面で、いろいろな方に挨拶をでき、充実した大会でした。ありがとうございました。

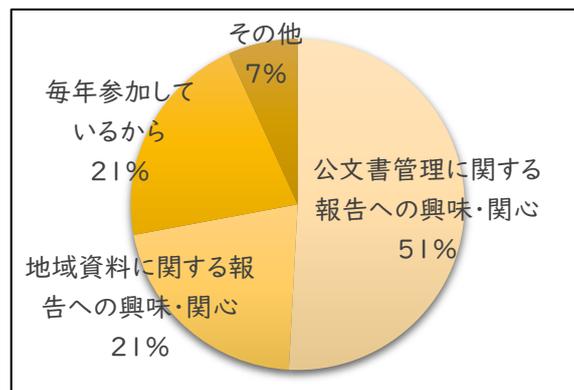
アーカイブズ入門がなかったのが残念だった。

大会趣旨説明を簡潔にしてほしい。

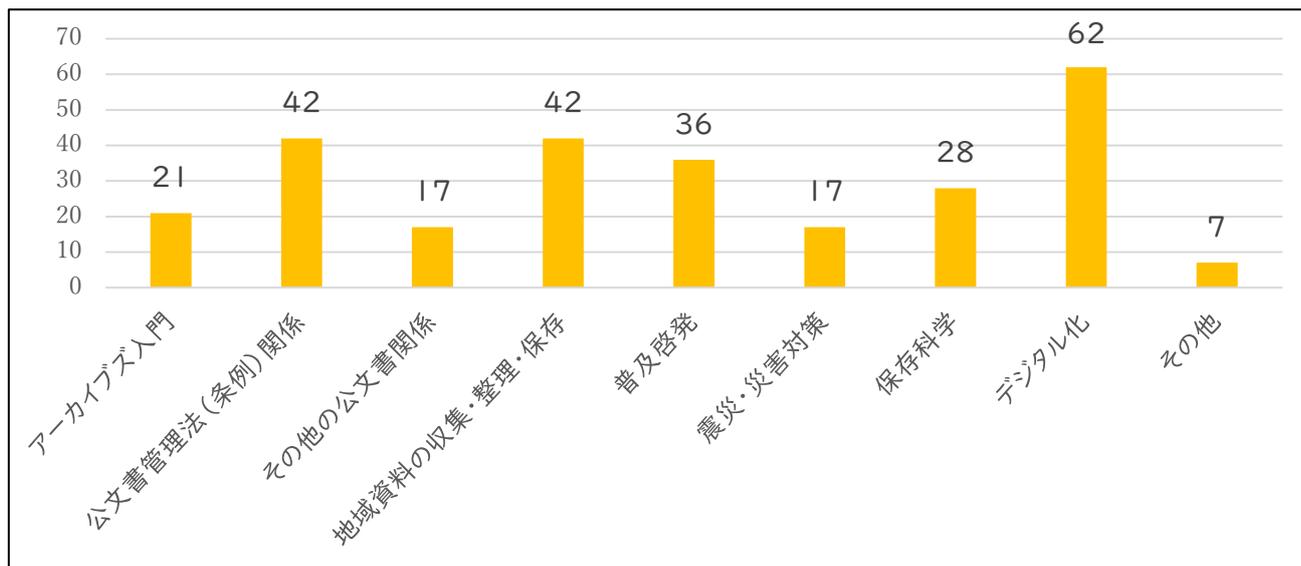
ハイブリッドでの開催で大変なご苦勞だったと思います。ズーム配信のおかげで多くの職員も大会の雰囲気を知れてありがたかったです。参加費につきまして、機関会員であればその自治体の事務担当が必要とする請求書や納品書の形式に合わせて書類を発行していただいたり、費用の納付について様々なパターンが発生するなど、大会運営事務局においては多大な事務処理が発生します。今後は参加費をなしにして省力化をし、持続可能な大会運営を考えていただきたいなと思います。

難しいかもしれないが、公開できない発表資料もあったので、今回はできるだけ、公開していただけると嬉しいです。
次年度以降も、オンラインとのハイブリッド開催をお願いしたいです。
このたびは急な入会にご対応いただき、またハイブリッド開催ありがとうございました。
初の対面とオンラインのハイブリッド開催で、人員などの対応で難しい面もあったかもしれないが、オンライン参加者は、過去2回のオンライン大会で可能だった質問・討論に参加できなかったことは大変残念であった。開催通知・大会案内には、オンライン参加では質問・討論に参加できないことが周知されておらず、大会開催10日前のメールで初めて知らされたことは、遺憾であった。討論できないのであれば、アーカイブズ配信を視聴することと変わらず、リアルタイムでの参加の意味がない。参加者名簿によると全体の参加者のうち4分の1以上がオンライン参加であるならば、配慮が必要であったと思う。少なくとも、申込段階で周知があれば、対面参加を選ぶことも可能であったと思う。大会テーマ「自治体アーカイブズの現在と未来」を考えるならば、遠方の自治体中心のオンライン参加者の声を会場に届けられず、知ることができなかったことは本大会の在り方としては大変残念だった。
現地及びオンラインでの御対応をいただき誠にありがとうございました。
主催・共催とのことで準備が大変だったと思います。
オンライン参加だったが、人によっては音声聞き取りにくく、音の調整等ができればよかった。
全国的にどの分野でも人材不足が言われている中で、全史料協としてこれだけの大会を開催するのは大変なことだと思いますし、有難く思います。
全国規模での大会運営は大変だったと思います。お疲れ様でした。
ハイブリッド形式の開催はとても有難いが、オンラインでのチャットの質問を会場で反映していただけると嬉しい。
初めて本研修会に参加いたしましたが、参加にあたってのご対応を丁寧にしてくださいまして、感謝しております。大会のプログラムや当日の進行等もわかりやすくスムーズで、大変良い機会になりました。ありがとうございました。
オンラインはとぎれがちだった。
本大会は、日本のアーカイブズの世界において、必要な組織であるという認識を持ちました。これからも、情報交換の場として、研修の場として、あり続けてほしいと思いました。
どのご報告も大変勉強になりました。全国の公文書館が抱える共通の課題や、各館の意欲的な取組について学ぶことができました。

11. 東京大会参加の理由について



11. 研修会で扱ってほしい(力を入れてほしい)テーマについて(複数回答)



※「その他」のうち、具体の回答

(閲覧・公開への取組、レファレンス、目録作成、遠隔申請への対応)

12. テーマ研究会で扱ってほしい(力を入れてほしい)テーマについて

それぞれの館の立ち位置が違うのでなかなか難しいですが、今回のテーマは良かったと思います。
基礎自治体の公文書館設置
自治体アーカイブズは、自治体内のコミュニティ活動記録を収集する意志があるのか。今後の収集ポリシーをどのように見直せばいいのか。
収集した文書の活用について公民教育の問題の重要性に気づかされました。
近代の個人文書(散逸例)など、戦時史資料について
資料保存と防災を取り扱ってほしい。
電子化した公文書の公開について(データの保存法や利用提供の仕方についてなど)
アーカイブズと文書管理条例との関わり
アドボカシー、コレクション・マネジメント・システム
電子公文書→デジタルアーカイブの流れ
電子公文書の実務(選別・保管・公開)
近現代資料の保存について
デジタル化について扱ってほしいです。電子記録の長期保存と公開に取り組んでいる団体があれば教えてほしいです。
電子文書の保存について
文書のデジタル化について
公文書館機能、地域アーカイブズ
基礎自治体の公文書管理、現用文書管理とアーカイブズの関係、電子文書管理

専門職問題・認証アーキビスト・准アーキビストとの関連付けた将来像の提示。目録標準と文書検索・情報発信・画像閲覧のあり方。
アーカイブズの啓発・周知
アーキビストの具体的な仕事内容
電子公文書の保存と管理・選別方法など
地域資料の整理・保存
市民とアーカイブズ(アーキビストとのつながり)
戦後史、歴史としての「現代」
旧役場文書や戦前の資料ではない、平成・令和の歴史的公文書が、どのように利用できるのか、どのような公文書を歴史的公文書として保存していかなければならないのか、悩みながら評価選別をしている。前者の歴史資料・地域資料については知見が豊富だが、後者についてはないように思う。
各ご家庭での代替わりで薄れゆく文書への関心について
デジタル化関係を希望します。
近現代資料のデジタル化・紙資料の保存方法
歴史公文書、歴史資料収集の判断基準、体制などの比較検討
電子文書の評価選別
日頃、公文書に触れない一般の方へのPR方法。
公文書館内での地域資料の位置づけや公文書部門と地域資料部門の連携について。 資料のデジタル化と原本保存、ポーンデジタル資料の収集・保存に関する問題

13. これからの全史料協全国大会に対して望むこと

とても充実した有意義な時間をすごさせてもらいました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
ハイブリッド方式が開催方法としては有り難いと思います。できれば対面参加したいのですが、業務の都合もあり難しいです。
今後もハイブリッドにして対面とオンラインを併用し、多くの人に参加できるようにしてほしい。対面だけに絞ると、時間や費用がかかるため参加者は減少すると思われる。
名札の「名前」部分を、名札のヨコ半分くらいに入るくらい、ゴシック体・24~28ポイント以上にしたら、パッとみて相手の名前が見えやすいかと思います。
史料保存機関が今後も活動できるよう情報発信・オピニオンリーダーになっていただければ。
当日投影 PPT を共有してほしい(大会誌と内容が違ったり、より充実していることが多いので)
近現代文書の散逸の問題はいずれお願いいたします。
昼休みや休憩をもう少し長くして頂けると、ブースやポスターを見に行きやすい。現状は忙しかった。
大会冊子は PDF を事前に HP にあげて、会員は参加費を無料にしてほしい。
基礎自治体で文書管理・アーカイブズ保存に関わる方たちが参加したくなる内容を期待します。
次回からもオンライン参加ができるようにしてもらいたい。
運営が問われている全史料協ですが、やはり人と人との交流は大切だと思いました。大変ご苦勞が多いと思いますが、一步一步進んでいくことを望みます。
事例報告の共有と客観的評価の積み重ね、新しく取り組む自治体、団体の支援となるもの。

ハイブリッド大会の場合、オンライン参加者の意見や発信を総合討論の際に活かせるように運営の工夫を望みたいと思います(大変ですが)
各地方自治体をつなぐこと(連携)。公文書管理の考え方の普及活動。
平日開催ですと、中々参加しづらい点もあります。今回は有給をとってきました。
ハイブリッド方式は継続をお願いしたいと思います。
(できれば)ハイブリッド開催を継続して下されば、たいへんありがたく存じます。
ハイブリッド開催は継続してほしい。
最近の大会は、全史料協の活動に熱心な(取り組む余裕がある?)所蔵機関中心になっているような気がする。遠方にあり、予算や人員など小規模なアーカイブズも活躍できるような全史料協大会の在り方を今一度考えてほしい。
今後もオンラインで参加できるように続けてほしい。
日程を、初日は午後から施設見学のみ、2日目に研究会とするのはどうでしょうか。休憩時間中のスライドを、その都度修正してほしい(次の開始時間など)。
今後も対面とオンラインのハイブリット型の会議・研修を続けて欲しい。
遠方でも参加しやすいので、今後もハイブリッド形式での開催を続けてほしい。